

中間評価	事業名	発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業		実施団体名	特定非営利活動法人 人・ふれあい・ひろば	事業番号	H27-
	岡山市	発達障害者支援センター	所長 横畑 一 / 所長補佐 片山 孝保			事業費	1,192,400
	団体責任者 役職名・氏名	特定非営利活動法人 人・ふれあい・ひろば	理事長 藤井 弥生			補助金額	953,000
	記入者名			問合せ先 電話番号		支出経費 9月末概算	

番号	体制・進捗の評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か	⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに何を行うか)
1	事業はスケジュールに基づいて実施されていますか？	実施されている。養成講座は全2回が終了。相談座談会(受講生のOJT)は通年で毎月6回、地域公民館で実施。手引きは予算面から、3種類を1種類へ変更する。	スケジュールについては特記すべき事項無し	
2	経費は概ね予算どおりに執行されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ● 予定通り執行されている。 ● 支出額 <ul style="list-style-type: none"> ・5月:85,732円(指導者報酬、事務日当、指導者交通費、雑費、通信費) ・6月:87,869円(内訳は5月と同じ) ・7月:90,348円(内訳は5月と同じ) ・8月:87,810円(内訳は5月と同じ) ・9月:88,991円(内訳は5月と同じ) 合計支出:440,750円 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予算執行、管理について特記すべき課題はない。 ● 当初予算編成時に、手引き作成にかかる予算として計上していた8万円では3種類×50冊の製本は難しい。 	● 手引き作成にかかる経費として8万円計上していたが、予算面を踏まえて1種類×50冊を作成する。
3	事業の進捗状況を関係機関等に発信し、積極的に連携を図っていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関(以下参照)との連携体制は強化され、個々の相談事例の検証と対策検討を日常的に行っている。 ● 関係機関 福祉事業所:りゅうそう放課後ラボ・ももっこ・さんさん広場・晴れる家 支援学校/小中学校の校長・教頭/民生委員、主任児童委員/市内公民館 親の会:オレンジクローバー・カンガルーポー・はばたき(通級指導教室の親の会)・はあとりんく(LDの会) ● 発信の手段 通信(紙媒体で郵送)、電話、facebook、講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関との連携を進めるために必要である、「発達障害の支援に関わる全機関や事業所が一覧(相関図)になっている紙媒体やインターネット上のプラットフォーム」が存在していると、支援の質が向上する。 ● 親や支援者に対して、課題や支援組織の情報をさらに届ける必要がある。情報を集約する機能・媒体が必要である。 	● 既に連携している団体へ、連携図作成を提案したいと考えている。人・ふれあい・ひろばが連携図作成の主体を担うには時間、予算、他事業との兼ね合いの面から難しいが、作成主体となる機関へ働きかける。

	事業名	発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業	実施 団体名	特定非営利活動法人 人・ふれあい・ひろば	事業番号	H27-
4	団体と担当部署間で事業目標を共有し、次年度以降の展開に向けて協議していますか？	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年度は、今年度の養成講座受講者がサービスの担い手となり、法人として新たな取り組みを自主財源で行う。 ●次年度以降は、随時受入れを行うことができる「場」を整備する予定。8時から18時まで毎日開所し、A型事業所の方針で計画中。 		<ul style="list-style-type: none"> ●国・県の動向もにらみつつ、市民ニーズの更なる汲み取りも必要であるため、現時点で市による一般施策化は難しい。 		<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年度以降の養成講座の受講希望者へは、自主財源・自主事業で講座機会を提供する。 ●常時受け入れを行うことができる「場」を設備する。 ●モデル事業に限らず、人・ふれあい・ひろばから行政への政策提言を行う予定。
番号	事業に対する評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か		⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに何を行うか)	
1	養成講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●養成講座の受講生と、座談会でのOJTは10名で推移 ●4名の方が来年度から受講を希望している。 ●次回は平成27年2月20日(土)。「訊く」ことがテーマ。講師は朝日塾小学校の先生が務める。 		<ul style="list-style-type: none"> ●講座への参加希望を持つ教職員がいるが、平日は授業があり、相談座談会も平日土日を含め複数日程設定されており、全日程への参加をすることは不可能。 		<ul style="list-style-type: none"> ●教職員のより積極的な講座活用について関係部局に打診していく。
2	相談座談会の開催(OJTの取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ●5月～9月まで、当初の予定通り毎月6回実施している。 ●過去2回の「寄り添える人材養成講座」に参加した10名が、座談会においてOJTを受けている。 ●親御さんへアンケートを実施している。(別紙参照) ●相談件数は増加している。 543件(相談座談会・電話・メール・来社合計) 		<ul style="list-style-type: none"> ●寄り添える人材養成講座の受講者個々人のスキルアップを図る必要性がある。 ●現在、座談会において受講者が相談者一人に対してかけている時間をより短く、内容はさらに濃いものにする。 ●親御さんの負担軽減について、アンケートの他に把握と分析をする手段がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ●個々人のスキルや相談業務の進捗状況を整理・分析し、個々の能力を伸ばすと共にスキルの均一化を図る。
3	寄り添う人ための手引き作成(3冊)	<ul style="list-style-type: none"> ●当初は3種類×50ページ×50冊を作成予定だったが、1種類×50ページを作成する予定。 ●総冊数は印刷業者と調整中。 ●寄り添える人材の養成講座を第一の目的として、内容は「聞く・聴く・訊く」「家庭療育」「相談を受ける」の3章で構成予定。 ●配布・設置先:連携機関(郵送) 		<ul style="list-style-type: none"> ●手引きに専門用語が多く含まれると、入門書としては活用する事は難しい。文言や構成を慎重に精査する必要がある。 ●発達障がいについて専門的な知識を有していない方でも、理解できる内容にする必要がある。 ●具体的な発行スケジュールは現在調整中。 		<ul style="list-style-type: none"> ●専門家の方はもちろんのこと、専門外の方に監修していただきながら、内容を改良していく。 ●作成にかかる予算、部数、スケジュール、送付先を整理し、団体及び担当課で共有する。
	その他特記事項及びESD・市民協働推進センター等への要望	現 況	課 題		要望・対策(案)	

	事業名	発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業	実施 団体名	特定非営利活動法人 人・ふれあい・ひろば	事業番号	H27-
1	とくになし					